

テーマ 「よく見て、よく考えて、なんでもする子」

0・1才の目標・ねらい

- 野外で過ごすことを楽しむ
- 気候の変化や季節の移り変わりをを感じる
- 運動機能の発達を促す

ふりかえり

- 1対1のコミュニケーションを大切にしながら、安心して過ごせる環境づくりに配慮した。部屋や保育者に慣れ、生活リズムが確立すると遊びも楽しめるようになった。外気浴をすることで外で過ごす心地良さを感じられるようにしたり、戸外で見るもの触るものが初めての経験ということを考えながら無理なく遊びを進め、また十分に働きかけていくことで、保育者のかける言葉に喃語や身振り手振りで答える姿が見られた。
- 遊びの中ではまず保育者が遊びを楽しむ姿を見せたり、感触遊びでは感じたことを声に出したり気持ちを表情に出し伝えることで子どももやってみようとする気持ちを引き出した。喃語や指差しで伝えようとしていることを受け止め、共感する言葉がけをしたことで、遊びを十分に楽しむことが出来るようになった。保育者は遊びに必要な物を用意するだけでなくアイデアを出し合い違った遊び方をする事で子どもたちの反応を見ることもできたが、もう少し他の取り組みもできたのではないかと思うこともあった。
- 運動機能の発達には差はあるが個々に合った取り組みの中で、成長に合わせた活動が出来るように関わりつつ、適切な援助をすることで無理なく発達を促すようにした。活動も活発になると気持ちが走りすぎ危険につながりそうな場面も見られたので、しっかり目を配り、怪我のないようにした。

子どもの様子からこんなことが出来るようになっていて、と感じることがあり今まで保育者が活動内容や範囲の限界を決めてしまっていたと思うところがあり反省する。

- 落ち着く場所で気に入った玩具で遊ぶ姿、何度もしてみたり自らしたことを楽しんだり遊び方も変化が見られるようになってきた。戸外でも自ら虫や草花を探すようになり見たもの気づいたものを保育者に知らせるようになった。子どもたちの気づきを受け止め、見つけたもの気づいたものをみんなで一緒に見ることで満足感が持てるようにした。また友だちの姿を見て、子ども自身が刺激されていると感じることもあった。

2, 3才の目標・ねらい

- 環境の変化に気づき、興味や関心を持つ
- 体力の増進を図る

ふりかえり

- 自分の思いや欲求などを言葉で伝えられるようになってきた。戸外では自然物や虫の発見を喜ぶ中で言葉のやり取りが増え、会話を楽しむようになったが言葉のやり取りが難しい子どもには、保育者が間に入ることで友だちと楽しめるようにしたり、発した言葉に共感することで言葉の発達につなげた。
- 遊びを通して様々な感触を楽しめるようにした。手や足で触れることを嫌がる子どももいたので、その子なりに楽しめるように遊びを考えるようにした。また繰り返し行うことでより楽しむようになってきたので、継続的に行うことも良かったのではないかと感じた。遊び方に個人差がある中クラスで取り組むことに意識が行きすぎてしまい個々に応じた対応が不十分と感じる時があったので、クラスでしっかり考えていく必要があった。アイデアをクラスで出し合ったが、他のクラスの遊びを教えてもらうようにすればもっと遊びが広がったのでは、と感じることもあった。雨の上りの匂いや陽射しの暑さ、影の涼しさなど子どもが理解に繋げることは難しいことがあったが、関心を持つ様子は見られたので、保育者がしっかり発信すること、経験を積み重ねることで今後につながるようにしたい。
- 階段の昇り降りや坂道を下ったりなど様々な体験をできるようにしたことで、運動機能の向上も見られた。個人差があるので、取り組んだ内容をきちんとできるというわけではないが、遊びを通してルールを意識できるようになってきたことを感じることもできた。園外の階段などを利用することで園内ではできない体験ができたことも心身の成長につながった。

- 実際風、雪に触れることで自然に関心を持つようになってきたり、風が強くなった、と言葉で感じたことを表現できるようになってきた。自然に触れながらその季節に応じた取り組みを経験することで、自然に対しての関心が高まり、好奇心を刺激することで言葉や体力の成長にもつなげることが出来たように思う。

園外では定期的に同じ場所に行くことで季節の変化を楽しめるようにしたが子ども自身で自然の変化に気づくことが難しいこともあったので、保育者が発信することで感じるようにした。これ何？と疑問を問いかける子どももいたので子どもが理解できるように答えるようにした。また場所を特定にしたことで場所に対しての愛着を感じることもできた。感じたことを言葉にしたり、見つけて自然物を使って遊んだりする姿が見られ、そこから自然と友だちとのかかわりも増えた。子どもにより差はあるが、経験が活かされその子なりの成長を感じる事ができた。色々ことに興味を持っている子は積極的に楽しめるが関心が低い子への配慮をもっと工夫すれば良かった。

4, 5才の目標・ねらい

- 自発的に活動しようとする
- 状況に適応できるようになる
- 身体的バランス能力を育む

ふりかえり

- 活動の範囲が広がり、遊びも友だちと考え楽しむ姿が見られるようになってきた。戸外では見つけた虫や花などを図鑑にあるものに当てはめようとするがそれが正解とは限らないので、図鑑だけではなく時には保育者とインターネットなどを利用することでもっと詳しく調べることができ、子どもたちの興味、関心を大切にできた。異年齢児が植物を見たり、生き物を指さしたりした時に、名前を伝えて自慢げな様子を見ると、これまでの観察や調べてきたことが力になっていると感じた。
- 作物の世話をする中では発見、気づきが多く、子ども同士で観察での気づきを知らせ合姿も見られた。作物の生長を楽しみにし毎日の水やり、雑草抜きも熱心におこなった。生長の過程を友だちや保育者と間近で見ることで愛着も沸き収穫には大きな喜びがあり、1つのことをやり通したという達成感も味わった。保育者は先に声をかけるのではなく子どもの声を聞き、それに共感することで子どもの思いに寄り添えるようにした。質問があるとヒントを出すようにし自身で答えを出せるようにもした。

- 遊びの方法は保育者が伝え興味が見られたときは、遊びを継続したり発展させて楽しむようにし、もっとやってみたいと思う気持ちを大切にしながら、別の方法を色々用意していたらまた違った発展があり、より達成感や満足感も得られたでは、と反省もあった。園外では同じ場所で四季の変化を気づけるように探索場所にも工夫し、その気づきをみんなで話し合い、振り返りを行うようにした。自身の思いを発表するだけでなく友だちの意見を聞いて考える時間も作った。
- 子どもたちで遊びを取り組むようになると問題も発生しその事々に保育者は子どもの声を聞きじっくり対応するようにした。自身の思いを主張するがために友だちと意見が衝突したりすることもあり事前にルールを決めておいたら良かったと感じることもあったが、次第に遊びの前にルールを子どもたちが決めて始めることもあり子どもたち自身で考えて行動できるようになった。
- 様々な運動器具を使うことにより運動遊びを身近に感じられるようにしたり、用具をいつでも使える場所に置くことで自発的に挑戦できる環境にした。逆上がりの練習では自身が取り組むだけではなく友だちを応援する姿も見られた。取り組みには個人差があり苦手な子どもにはやってみようとする言葉がけや色々な取り組み方がもっと必要だった。今後も様々な挑戦が出来るように個々に合った環境や時間を作りたい。

全体の反省

- ・緊急事態宣言発令という初めて経験することに、戸惑いを感じながらも園内では子どもたちに手洗い、うがいの徹底を行い、また消毒などできることをして予防に努めた。生活の中では年齢に合った病気予防の大切さを知らせることで個々の理解に繋げるようにした。緊急事態宣言は新年度スタートしてすぐということもあり、解除後は信頼関係を築くためにコミュニケーションを十分に取るようにしたり、小さいクラスはゆったりと保育を進めるようにしたことでどのクラスもすぐに落ち着いて生活する姿があった。
- ・各行事担当人数は前年までの人数で問題はなかったがよりスムーズに行えるようにと人数を増やしてみた。上手くいくこともあったが、その反面担当者同士にまとまりがないと感じることもあった。複数いるので担当者全員が内容を把握していないといけないのでしっかり連絡を取る必要があったが、その時間が不十分だった。担当者の人数は次年度検討する。
- ・行事はコロナウイルス感染防止を考え中止や変更することばかりではあったが保護者の方には理解と協力を頂けたことが良かった。子どもたちが落ち着いて生活していることが理解と協力を繋がっているのだと改めて感じ日頃の保育、子どもたちとの関わりがいかに大切かを感じる1年だった。
その中でも実施した行事は終了後職員会議で報告、振り返りをし次年度へ繋げていく。
- ・保育の学びは、出来る環境で年齢に合った取り組みを行った。十分にできたこともあればそうでないこともあった。取り組みの期ごとに反省会を行い反省内容は今後同じ繰り返しをしないようにしっかり行った。また、クラスでの取り組みにつまずいた時は他のクラスとの意見交換や一緒に行うことで子どもたちの良い反応が見られたり遊びの展開に繋がることもあったので今後もぜひ取り入れたい。
- ・コロナウイルスという大きな壁を事あるごとに考えた1年ではあったが、子どもの安全を守るだけでなく保育者も状況に応じた取り組みを考える年となった。今後も引き続き行っていきたい。